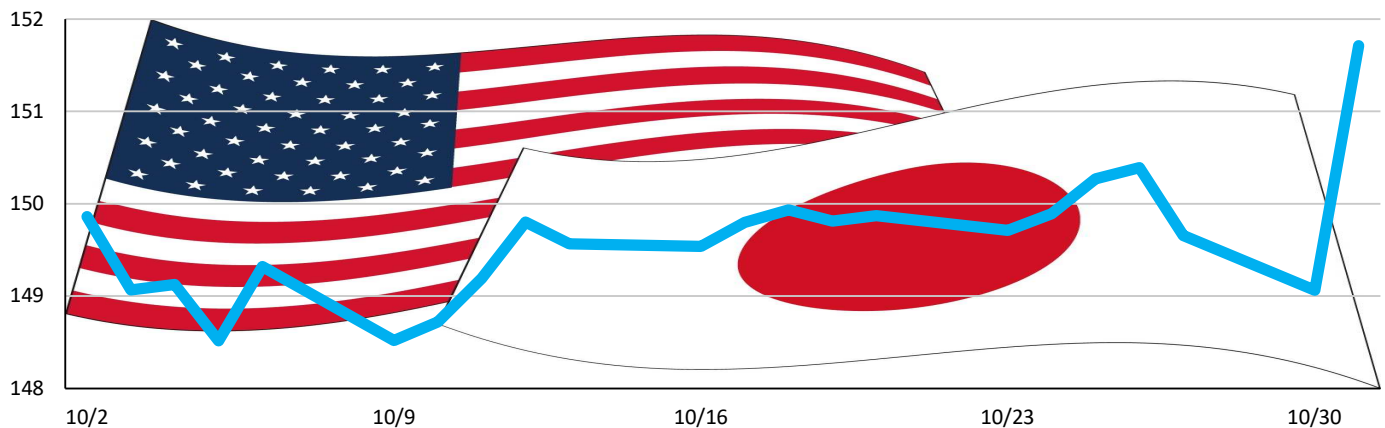


## MARKET REVIEW

**先月の振り返り：**10月のドル円相場は147円前半～151円後半で推移。月初に150円を突破したドル円は、直後に円買い介入と思われる動きで一気に147円前半まで急落したが、良好な米雇用統計などで149円台を回復する荒い動き。また、イスラム組織ハマスがイスラエルに対する大規模攻撃を行い、地政学リスクの高まりを受けたドル売りも見られたが、米消費者物価指数などが軒並み市場予想を上回りドルは底堅く推移。その後は150円を目前に介入警戒感から上値が重かったが、米新築住宅販売が予想を大幅に上回る伸びをみせてドル買いが進み150円台に突入。月末の日銀金融政策決定会合を控えて調整の動きもあったが、YCCの修正が伝わり150円台を回復すると、月初の急落が為替介入では無かったことが確認されことで円安が加速し昨年来の151円71銭をつけた。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



## EXTRA VISION

**今後の展開：**日米金利差の根本は、米国は好景気でインフレ傾向が冷めないため金利を上げて、引き締めようとしているのに対し、日本はお金を借りやすく返しやすい状況にして景気を上向けようとする金融政策の違いにある。米FOMCにおいて2会合連続で政策金利を据え置いたものの、利下げについては検討していないこともあり、日米の金融政策が転換されるまでは、円安ドル高の流れは続いていこう。短期的には為替介入の可能性もあるが、日米金利差というファンダメンタルズ要因を踏まえると安易に為替介入に踏み切りづらい面もある。急激な動きにも対応できるようにポジションを構築しておきたいところだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
11 / 15 (水)	22 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
11 / 28 (火)	0 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
11 / 29 (水)	22 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
12 / 8 (金)	22 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
12 / 12 (火)	22 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
12 / 14 (木)	4 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
12 / 14 (木)	22 : 15	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。